

## 三井物産のCSR



### 社会への貢献

現代社会は、グローバル化やICT化が加速し、多様性に満ち、活力に富み、成長や変化のスピードが速くなる一方、世界的な課題である地球温暖化、食料、エネルギー、水資源などの環境・資源問題、人権や貧困、児童労働や教育の格差など、経済、環境、社会面において多種多様な課題を抱えています。

私たち民間企業の持続的な発展も、社会全体の持続可能性(サステナビリティ)の向上なくして達成することはできません。自社が存在する地域社会、国家、国際社会などが、さまざまな課題を克服してより良い未来に向けて一歩ずつ歩いていく、その歩みに対し、企業が貢献していくことこそ、社会に属する一員としての責務であると認識しています。

当社では、本業を通じた社会への貢献を継続的に行うことが、企業の社会的責任であると考えています。事業を興し、新たな価値を創造し、人と人との関係を構築しながら、日本を含む世界経済や地域社会の健全な発展、また人々の生活水準の向上に、直接・間接に貢献していきたいと思っております。

### 価値観の源流は創業時代に



1876年創立の旧三井物産は、戦後間もなく財閥解体により解散し、同社の歴史に一度は幕を下ろしました。しかしその後、同社の「挑戦と創造」「自由闊達」「人の三井」といった価値観を共有した社員により立ち上げられた三井物産も、旧三井物産と同様、新たな価値を創造することで社会の発展に貢献してきました。

私たち三井物産の事業や仕事の進め方、ものの考え方の基本は、その多くが旧三井物産初代社長・益田孝の遺した価値観、仕事への姿勢に表れています。そこには、当社のCSR(企業の社会的責任)に対する考え方が明確に織り込まれており、その考え方は今も全く変わりありません。

「眼前の利に迷い、永遠の利を忘れるごときことなく、遠大な希望を抱かれることを望む。」

「三井物産会社を設立したのは、大いに貿易をやりたいというのが眼目であった。金が欲しいのではない、仕事がしたいと思ったのだ。」

「三井には人間が養成してある。これが三井の宝である。」



## 三井物産の経営理念

これらの事業・仕事におけるものの考え方や価値観・姿勢（Values）は、長らく明文化されたものではありませんでしたが、2004年に暗黙知として共有して来た価値観・理念を体系化・明文化し、「三井物産の経営理念（Mission, Vision, Values）」を策定しました。経営理念の共有は、当社がグローバルな事業活動を通じて世の中に本当に価値のある仕事を創造していくうえで、今までにも増して重要になっていくと考えます。

**経営理念（MVV）**

**Mission** 三井物産の企業使命  
大切な地球と、そこに住む人びとの夢溢れる未来作りに貢献します。

**Vision** 三井物産の目指す姿  
世界中のお客さまのニーズに応える「グローバル総合力企業」を目指します。

**Values** 三井物産の価値観・行動指針

- 「Fairであること」、「謙虚であること」を常として、社会の信頼に誠実に、真摯に応えます。
- 志を高く、目線を正しく、世の中の役に立つ仕事を追求します。
- 常に新しい分野に挑戦し、時代のさきがけとなる事業をダイナミックに創造します。
- 「自由闊達」の風土を活かし、会社と個人の能力を最大限に発揮します。
- 自己研鑽と自己実現を通じて、創造力とバランス感覚溢れる人材を育成します。

## 本業を通じた価値創造

旧三井物産創業から130周年を迎えた2006年に、「原点から未来へ良い仕事」と名づけた全社運動を展開しました。これは社員一人ひとりが旧三井物産創業以来の歴史を振り返り、未来を見据えて当社が取り組むべき「良い仕事」とは何か、現在取り組んでいる仕事は本当に「良い仕事」かどうかを考えてみようという運動です。

「良い仕事」とは、多種多様な事業をグローバルに展開する三井物産の全社員が共有すべき価値観を示した言葉であり、それは、(1)世の中にとって役に立ち、(2)お客様やパートナーの皆さまにとって有益な付加価値を生み出し、(3)社員一人ひとりのやりがいや納得感につながる仕事です。本業を通じて社会に価値を提供し続けること、即ち「良い仕事」を積み重ねていくことが、当社の社会に対する責任であり、「三井物産のCSR」の根幹となります。

社会の期待や要請も時代とともに急速なスピードで変化しさまざまな課題が深刻化する中、社会と企業との関係もまた、変わっていきます。現在のみならず、将来における企業の役割は何なのか、企業とは社会にとってどんな存在意義を持つものなのか、社会は企業に何を求めているのか等、企業人はこれら企業と社会との関係の変化を敏感に察知し、自らの役割を考え続けなければなりません。社会や環境に対する感度（センシティビティ）を向上させ、企業の最低限の義務である法律や社会倫理の遵守に留まらず、この仕事が生かす社会にどのような意味をもつのか、どう役立つのかということを社員一人ひとりが考えることが「良い仕事」の実践に向けた重要なプロセスになります。

無論「良い仕事」や「三井物産のCSR」を代表する事業や案件はひとつではありません。私たちのすべての仕事がお客さまや社会へ価値を提供する「良い仕事」となるように努力していくことが当社の社会に対する責任だと考えています。

## 社会の持続可能性と「三井物産のCSR」

社会が持続可能でなければ、会社も持続可能とはなりません。また、会社が持続可能でなければ、社会的責任を果たすことはできません。「三井物産のCSR」の根幹をなす「良い仕事」とは、世の中に価値を生み出す仕事であり、その価値への対価として、結果的に利益が後から付いてくると考えています。私たちは、この順序で物事を考えることが大事であり、「良い仕事」の実践こそが当社の持続可能性につながると考えています。

三井物産はその歴史の中で、将来どういう時代が訪れるのか、社会や国家はどのように変わっていくのか、あるいはどう変わっていくべきかということを考え、その中で自社のポテンシャルを如何に発揮し、リソースをどのように生かしていくのか、また自社の機能をどのように進化させるのかということ、連綿と追求し続けてきました。未来の日本と世界のあるべき姿を模索し、未来のビジョンと課題を見据えて、より良い未来のために当社はどのような貢献ができるのか、何をなすべきなのか、しっかり見据えて日々の仕事をしていくことが求められています。そうしたビジョンの実現に向けて、本業を通じて価値を創造し「良い仕事」を提供していくことが持続可能な社会の構築に向けた貢献であり、「三井物産のCSR」の実践といえるでしょう。

## CSR基本方針と推進体制

### CSR基本方針

1. 経済における役割を果たすとともに、三井物産の社会的な存在意義を十分に考え、環境とのかかわりを強く意識し、誠実な活動を展開することで、会社としての価値を持続的に向上させます。
2. CSRに関する社員一人ひとりの意識を高め、さらにコーポレート・ガバナンスを強化し内部統制を徹底することで、CSR実践のための経営基盤を固めます。そして社会に積極的に貢献します。
3. ステークホルダーとの双方向の対話を重視します。CSRにかかわる説明責任を果たし、そのフィードバックに基づいて、継続的にCSR活動の向上を図ります。

### CSR推進体制の構築

2004年度に経営会議の諮問機関として「CSR推進委員会」を設置し、CSRに関する社内体制の構築や、社員への意識啓発に取り組んできました。そして、企業の社会的側面における姿勢や活動に対する社会からの期待や要請に応えるべく、当社の各部署が横断的に連携してCSR関連活動を推進しています。

また、CSR経営や「良い仕事」の社内浸透、そして現場と一体となった活動の企画・推進を図るため、コーポレートスタッフ部門、各営業本部、海外地域本部および国内支社・支店に「CSR推進担当者」を設置し、社内ネットワークを構築しています。

### CSR推進体制



## CSR推進委員会

CSR推進委員会は、CSRにかかわる経営方針および事業活動に関する経営会議への提言、CSR経営の社内浸透、また「特定事業」に対する答申などをその目的としています。

委員会は、コーポレートスタッフ部門担当役員（経営企画部担当）を委員長、コーポレートスタッフ部門担当役員（人事総務部・法務部担当）を副委員長とし、経営企画部（事務局）、IR部、広報部、人事総務部、法務部、事業管理部、環境・社会貢献部といったコーポレートスタッフ部門各部長により構成され、以下に掲げる事項を役割として活動しています。

1. CSR経営の基本方針およびCSR推進活動の基本計画の立案。
2. CSR経営の社内推進体制の構築および整備。
3. CSR推進活動の年次重点課題の策定と推進。
4. CSRにかかわる社内外対応。
5. 特定事業に該当する個々の案件の推進可否、または推進する場合の留意事項などに関する答申。

また、CSRにかかわる諸課題への対応を目的に、CSR推進委員会の下部組織として、環境諮問委員会を設置しています。

## 三井物産を取り巻くステークホルダー

三井物産は、当社の多種多様かつグローバルな事業活動が社会に及ぼす影響を見極めのうえ、利害関係を持つステークホルダーを特定すべく対応しています。

ステークホルダーとの双方向の対話を通じて、当社の役職員一人ひとりが、社会からの期待や要請をしっかりと把握したうえで、市場の環境変化に適応しつつ自らを絶え間なく進化させ、本業を通じて社会の役に立つ三井物産らしい価値を創造し、社会に提供していきます。

### ステークホルダーダイアログの開催（2011年11月）

当社は、さまざまなステークホルダーとの対話を通じて、社会の要請や動向を把握しつつ、事業を推進しております。

2011年度は、消費者向け不動産事業分野をテーマに、成蹊大学経済学部の井出教授および日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会の土田主任研究員を招いてステークホルダーダイアログを開催しました。

当社からはコンシューマーサービス事業本部都市開発事業部が出席し、井出教授からは政府や学会の動向を踏まえた意見を貰い、土田主任研究員からは消費者の視点でさまざまな指摘を受けました。当社は、本ダイアログで受けた意見や指摘を今後の事業活動に活かしていきます。

